

科目コード	5100031	単位	2	時間数	30		
授業科目名	法律を考えるB - 法学 -	開講学期等	後期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Jurisprudence B : Outline of Civil Law						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1・2・3・4年				
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化・地域科学	教文3-328	889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 11:00-12:00		【場所】	教文3-328室		
授業の目的				授業の到達目標			
法学一般に共通する基本的な知識・思考力を身につける。				法律諸科目を専門的に学ぶ際に要求される、法学一般に共通の基礎的・基本的な考え方と知識を身につける。			
カリキュラム上の位置付け	法律諸科目を学ぶ際の共通の基礎となる科目である。						
授業の概要	法学入門のための定評ある教科書の読解を通じて、法学に関する基礎的な知識・思考力を涵養する。						
授業の進行予定及び進め方	授業計画 0. 法学を学ぶにあたって(第1回) 1. 法 社会規範(第1回～第4回) 2. 法源(第5回～第8回) 3. 法の解釈と適用(第9回～第13回) 4. 法学の歴史と現在(第14回・第15回)						
授業に関連するキーワード	法		法学		法規範		
	社会規範		法源		法の解釈		
	法の適用						
成績評価の方法	100点を満点として、期末試験(80%)の成績と学習への積極性等に基づく平常点(20%)の合計60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教	『法学入門〔第3版〕』		五十嵐清	悠々社	2005	
	参	『ブレップ 法学を学ぶ前に』		道垣内弘人	弘文堂	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄	あらかじめ教科書に目を通してから授業に出席すること(授業計画の1～4の番号はそれぞれ教科書の第1章～第4章に対応している)。						
自由記述欄	受講の際は、六法(小型のものでよい)を必ず持参すること。						

科目コード	5100040		単位	2	時間数	30	
授業科目名	日本国憲法A - 自分の憲法観が持てるように -		開講学期等	後期	時間割	金7・8	
授業科目名英字	The Constitution of Japan A						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナール - 人権の現代的諸相 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日 18:00～19:00		【場所】	教文3 - 3 3 0		
授業の目的				授業の到達目標			
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解				1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。本授業科目は統治機構に主眼がかけられており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。						
授業の概要	【授業の概要】 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1～2回：国民主権と天皇制：天皇の地位，天皇の行為 3～4回：平和主義：9条の解釈 5～6回：国会：両院制，参議院の存在理由など 7～8回：内閣：議院内閣制など 9～10回：裁判所：司法権の概念と帰属など 11回：地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回：基本権：種類，享有主体など 15回：基本権：私人間効力 ・講義のなかで，憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・教育文化学部学校教育課程以外の学生については，受講者の人数制限を行うことがある。						
授業に関連するキーワード	憲法		統治機構		象徴		
	戦争の放棄		衆議院の解散		司法権の独立		
	外国人の人権						
成績評価の方法	期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいため、「六法」を用意すること。						
自由記述欄							

科目コード	5100042			単位	2	時間数	30
授業科目名	日本国憲法C - 自分の憲法観が持てるように -			開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	The Constitution of Japan C						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	法律を考えるA・B			履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化・地域科学	教文3-328	889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 11:00～12:00		【場所】	教文3-328室		
授業の目的				授業の到達目標			
日本国憲法について基本的な知識と考え方を身につける。				<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の条文・重要な判例について正確な知識を得る。 ・基本的人権について基礎的な考え方を理解する。 ・憲法の下における統治機構の基本構造を理解する。 			
カリキュラム上の位置付け	法学に限らず、社会科学の領域に属する諸科目を学ぶ際の基礎となる科目の一つである。						
授業の概要	日本国憲法について、第1回目に全体のイントロダクションを行い、その後は基本的人権、統治機構の順に全体を概観する。						
授業の進行予定及び進め方	<p>イントロダクション</p> <p>第1回 憲法を学ぶにあたって(1)</p> <p>基本的人権</p> <p>第2回 基本的人権とは・人権の享有主体(12)</p> <p>第3回 表現の自由(2)・学問の自由(3)</p> <p>第4回 信教の自由(4)</p> <p>第5回 財産権(5)</p> <p>第6回 職業選択の自由(6)</p> <p>第7回 人身の自由(7)</p> <p>第8回 社会権(8)</p> <p>第9回 参政権(9)</p> <p>第10回 法の下での平等(10)</p> <p>第11回 包括的基本権(11)</p> <p>統治機構</p> <p>第12回 代表民主制(13)</p> <p>第13回 国会・内閣(14)</p> <p>第14回 裁判所・地方自治</p> <p>第15回 平和主義(15)・憲法改正(16)</p>						
授業に関連するキーワード	立憲主義	国民主義		基本的人権の尊重			
	平和主義	統治機構		国会			
	内閣	裁判所		地方自治			
成績評価の方法	100点を満点として、期末試験(80%)の成績と学習への積極性等に基づく平常点(20%)の合計60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教	『憲法入門』		長谷部恭男	羽鳥書店	2010	
	参	『ブレップ 法学を学ぶ前に』		道垣内弘人	弘文堂	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄	授業はおおむね教科書の叙述の順序に従って進める(授業計画各回の後ろに()書きで示した数字は教科書の対応する章を表す)。1回の授業につき、教科書の対応箇所は10頁前後であるので、あらかじめ読んでくること。						
自由記述欄	教科書の巻末には、憲法の条文が掲載されているが、授業時に参照する条文は憲法に限られないので、授業には六法(小型でよい)を必ず持参すること。						

科目コード	5100071			単位		時間数	30	
授業科目名	現代社会と経済 B - 経済学入門 -			開講学期等		時間割		
授業科目名英字	Modern World and Economy IB: Introduction to Economics							
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択	
				受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	特になし			履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 12:00-12:50			【場所】	教文3-326		
授業の目的				授業の到達目標				
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解し説明できる。				経済学の基礎を身に付ける。 経済学を現実経済に応用できる。 経済現象を経済学的に説明できる。				
カリキュラム上の位置付け	経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものを見方を修得する。							
授業の概要	この授業では、経済学の基礎(主にミクロ経済学)について学習し、日常生活で直面する様々な問題を分析します。 毎回の授業は、まずNHKで放送された出社が楽しい経済学(DVD版)を用いて各テーマのイメージを持ってもらったあと、解説を行います。							
授業の進行予定及び進め方	第1回 インTRODククション 第2回 サンクコスト 第3回 機会費用 第4回 比較優位 第5回 インセンティブ 第6回 同上 第7回 モラルハザード 第8回 逆選択 第9回 価格差別 第10回 裁定 第11回 囚人のジレンマ 第12回 ゲーム理論 第13回 共有地の悲劇 第14回 割引現在価値 第15回 ネットワーク外部性							
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学			インセンティブ		情報の経済学		
	ゲーム理論			共有地の悲劇				
成績評価の方法	試験(80%)、学習態度(20%)により行う。総合60%を合格とする。							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用せず、プリントを配布する。 参考書籍等については、適宜授業の中で紹介する。							
自由記述欄								

科目コード	5100111			単位	2	時間数	30時間
授業科目名	日本と諸外国の政治 B - 比較政治 -			開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Comparative Politics						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	教育文化学部	教育文化3 - 332	内線2604				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11時～12時		【場所】	教育文化3 - 332		
授業の目的				授業の到達目標			
社会科学の基礎としての比較政治の習得。				1. 社会科学の1分野としての政治学の基礎の習得。 2. 現時点の政治の歴史的背景を考察する視点の獲得。 3. 外国の政治状況を自分なりに整理する方法論の基礎の習得。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	日本とロシアの政治の比較を通して社会科学の方法論を学ぶ。						
授業の進行予定及び進め方	1. 日本とロシアの関係の歴史的概観。 2. 冷戦期のソ連と日本。 3. 高度経済成長から低成長にかけての時代の日本。 4. 福祉国家体制から新自由主義的改革の時代の日本。 5. ソ連社会主義の概要。 6. 社会主義から資本主義の体制転換を経験したロシア。 7. 日本とロシアの現状。 8. 日本とロシアとの比較の視点。						
授業に関連するキーワード	資本主義		社会主義		福祉国家体制		
	冷戦		冷戦後の世界		市場原理		
	体制転換		政治再編				
成績評価の方法	基本的に試験						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『現代日本の政党デモクラシー』		中北浩爾	岩波書店	2012	
	参考書	『現代ロシアを知るための60章』		下斗米伸夫他	明石書店	2012	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100121			単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と家族B - 家族社会学の基礎 -			開講学期等	後期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Society and Family B: the Basis of Family Sociology						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石 沢 真 貴	政策科学	教文3-331	018-889-2616				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜14:30～16:00		【場所】	教文3-331		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。</p>				<p>家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。</p>			
カリキュラム上の位置付け	社会科学視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容						
授業の概要	<p>【授業の概要】 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に考察しつつ講義する。</p>						
授業の進行予定及び進め方	<p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 家族の定義 3 家族に関する基礎的概念 4 家族と法 5 家族に関する法の近年の動向 6 近代社会と「近代家族」 7 世帯構造の変化でみる現代家族 8 世帯構造変化の要因 9 家族機能の変化と家族問題 10 社会制度としての結婚 11 結婚に関する近年の動向 12 離婚・再婚に関する近年の動向 13 夫婦関係と性別役割分業 14 女性と労働 15 現代家族のゆくえ 						
授業に関連するキーワード	家族	近代		社会学			
	社会制度	ジェンダー					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・ 授業内の小レポート等の提出物を総合的な評価の際に考慮する場合もある。 ・ 総合的な評価の結果が60点未満の場合は不合格Dとする。 						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は使用しない。 ・ 必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。 						
自由記述欄							

科目コード	5100150			単位	1	時間数	8
授業科目名	男女共同参画社会論			開講学期等	後期前半	時間割	月3・4
授業科目名英字	Theory of Gender equality						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡部育子	教育文化学部	3 - 325	2615				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日 7・8時限（用アポイント）		【場所】	教育文化学部3 - 325		
授業の目的				授業の到達目標			
男女共同参画を推進する意義を学修し、社会人としてのキャリア形成やワークライフバランスの意識を涵養する。				1. 男女共同参画推進が社会理念となったことの意味を理解できる。 2. 自らが選択するワークライフバランスの下で仕事に邁進することの意味を理解できる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	わが国の男女共同参画の実情と課題に関して、各界の講師がオムニバス形式で講義する						
授業の進行予定及び進め方	第1回 秋田大学の男女共同参画推進について 第2回 労働行政から見る男女共同参画 第3回 秋田県の男女共同参画推進事業 第4回 企業における男女共同参画の取組 第5回 女性論 第6回 家庭科共修世代の男女共同参画 第7回 秋田大学若手女性研究者の提言 第8回 予備日						
授業に関連するキーワード	ワークライフバランス		ダイバーシティ		男女共同参画		
成績評価の方法	出席を重視する。 毎回、講義の内容および講義についての感想を書いて提出したリポートを総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	講師の都合により、各回の内容が入れ替わる場合がある						

科目コード	5110051			単位	2	時間数	30
授業科目名	心理学 B - 現代心理学の課題 -			開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Psychology IIB						
備考				授業の形式	講義・実習・学生	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	心理学I			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
北島正人	教育文化学部	教育文化学部5号館205-2	018-889-2693	柴田 健	教育文化学部	教育文化学部5号館301	018-889-2673
オフィスアワー	【曜日及び時間】	要 事前予約		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
心理学各領域の基礎的な理論や考え方を臨床心理学の視点を通して考えることにより、こころに対する理解を深めることを目的とします。				次の2つを到達目標とします。 (1) 心理学の各領域の基礎的な理論や考え方を理解し、それを臨床心理学と関連づけて説明できる。 (2) 日常生活で起こっていることを、授業で取り上げたトピックの範囲で心理学的な観点から考察し、理論立てて説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	心理学を学ぶことは、人間の活動についてさまざまな観点から理解することにつながります。何らかの対人的なサービスに携わるものにとっての基礎教育となります。						
授業の概要	【授業の概要】 本授業は2名の教員によって行われます。前半部分では、知覚・認知・動機づけ・感情・発達といった心理学の理論や社会学などの理論と臨床心理学との関連について論じます(柴田)。後半部分では発達・人格理論・心理アセスメント・心理療法についてテキスト上の事例を参考にしながら論じます(北島)。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 授業の進度によって、順番が変更になる可能性があります。 1. オリエンテーション：心理学の中の臨床心理学 2. 知覚・感覚の心理学：我々のものの見方について 3. 学習・記憶の心理学：行動療法入門 4. 認知・思考の心理学：認知療法入門 5. 感情・動機づけの心理学1：感情心理学の世界 6. 感情・動機づけの心理学2：その臨床的応用について 7. 社会心理学1：コミュニケーションとは何か？ 8. 社会心理学2：コミュニティ心理学入門 9. 犯罪と非行：幼少期の問題とその後の表現形 10. パーソナリティの心理学1：心理援助の基礎(人格理論) 11. パーソナリティの心理学2：心理援助の基礎(発達理論) 12. パーソナリティの心理学3：対象理解のための心理アセスメント 13. 臨床心理学と精神医学：心理療法 - かかわるということ - 14. 教育心理学：教育・生活の中での臨床心理学 15. まとめ・討論 16. テスト						
授業に関連するキーワード	臨床心理学	心理援助	心理アセスメント				
	心理療法	発達理論	人格理論				
成績評価の方法	出席30%，講義・討論への積極的参加20%，テスト50%を評価基準とします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『心とかかわる臨床心理第2版：基礎・実験・方法』		川瀬正裕他	ナカニシヤ出版	2006	
		『子ども おとな 社会 ～子どものこころを支える教』		高田知恵子 編著	北樹出版	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄	上記の2冊のテキストを用い、補足説明のためにその都度資料を配付します。						
自由記述欄							

科目コード	5110081		単位	2	時間数	30	
授業科目名	文学論B - 教養読書基礎講義 -		開講学期等	後期	時間割	金3・4	
授業科目名英字	Lecture on Literature B: Lecture on liberal reading						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に 関係する授業科目	特になし		履修する際に前提 とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
成田 雅樹	教育文化学部	教3-139・2531	2531				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火水金16:10～		【場所】	教文3-139 (電話: 889-2531)		
授業の目的				授業の到達目標			
(1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 (2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。				(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 (2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。 (3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。			
カリキュラム上の 位置付け	目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。						
授業の概要	翻案(映画)と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。						
授業の進行予定 及び進め方	1(10/4)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」) 2(10/11)～4(10/25)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較) 5(11/1)～6(11/8)回...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「塵気楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較) 7(11/15)～8(11/22)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較) 9(11/29)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較) 10(12/6)～11(12/13)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較) 12(12/20)～13(1/10)回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較) 14(1/17)～15(1/24)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較) 16(1/31)回...試験(レポート)						
授業に関連する キーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較		観想的態度		ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリ		
	解釈と物語スキーマ		視点及びシーンとサマリー		芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴ		
	表層と深層及びメタファーとテーマ						
成績評価の方法	授業中の発表や討論などの状況と学習態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合: C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合: B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合: A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合: S。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。総合6.0点以上を合格(C以上)とする。追試・再試は行わない。						
教科書 ・ 参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『文学理論のプラクティス』		土田知則・青柳悦子	新曜社	2001	
	参考書	『日本語の文体・レトリック辞典』		中村明	東京堂出版	2007	
教科書・参考書等 に関する記述欄	「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。						
自由記述欄	ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。「それから」「人間失格」「つぐみ」は事前に読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。						

科目コード	5110105		単位	2	時間数	30	
授業科目名	日本の近代文学		開講学期等	後期	時間割	金3・4	
授業科目名英字	Modern Japanese Literature						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部1-4年			
内容的に密接に関係する授業科目	日本文化基礎論Ⅳ、日本文化論		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
山崎義光	教育文化学部日本・アジア	教文3-131	018-889-2610				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日10:30-12:00		【場所】	教文3-131(山崎研究室)		
授業の目的				授業の到達目標			
日本の近代文学を対象に、「近代」化する日本の社会のなかで、人・生きもの・物といった対象が、どのように描かれてきたかを考えます。「文学」のなかに、時代・社会・思想・倫理・自己意識などの諸要素が、どのような表現方法によって描かれ、価値づけられているか。具体的な作品の精読を通じて考えます。				1. 作品の(発表された、描かれた)時代背景を、日本の近代史のなかで位置づけて説明できる。 2. 時代・社会的背景などについての知識と作品を関連づけて解釈することができる。 3. 『こころ』の特質、読みどころについて自分の観点を設けて説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	主題別科目「人間と文化」の一つで、文学という言葉の「文化」を通じて「人間」がどのように表現されたか、そこには現在と異なり、あるいは通じる、どのような問いかけがあったのかを考える科目です。						
授業の概要	高校教科書でもよく知られ、部分的にはよく読まれている小説『こころ』を対象とします。 『こころ』が朝日新聞に連載されたのは、大正3年(1914年)、今からほぼ100年前のことです。この小説には、さまざまに当時の社会的な制度・慣習・価値観などが書き込まれています。今、現在読んで自分の常識や価値観をあてはめて読む前に、作品に書き込まれた社会背景について知り、作品を精読して考えます。						
授業の進行予定及び進め方	第1-3回 漱石の生きた時代 第4-6回 『こころ』「上 先生と私」 第7-9回 『こころ』「中 両親と私」 第10-12回 『こころ』「下 先生と遺書」 第13-15回 『こころ』はどのように読まれ、評価されてきたか。 (進め方) 講義形式で進めます。 『こころ』の全体を(高校教科書所載部分だけでなく)読んでいることを前提とします。 講義内容を理解するに資する小テストを、不定期で行います。 作品読解と関連する事項に関する調査レポートと、自らの読解に関する最終レポートの2つを必須とします。						
授業に関連するキーワード	日本文学		近代		小説		
	夏目漱石		『こころ』		歴史		
	思想		社会				
成績評価の方法	小テスト(50%、目標の1および2)およびレポート(50%、目標の2および3)を総合して評価します。ただし、レポートをすべて提出していない場合には不合格とします。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『漱石の『こころ』 総力討論』		小森陽一ほか編	翰林書房	1994	
	参	『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』		飯田祐子	名古屋大学出版会	1998	
	参	『近代文学作品論集成 (3)夏目漱石『こころ』作品論』		猪熊雄治編	クレス出版	2001	
教科書・参考書等に関する記述欄	「教科書」は、夏目漱石『こころ』所載本とします。出版社、文庫本・単行本の別は問いません。ただし、授業時に必ず持参してください。						
自由記述欄							

科目コード	5110106		単位	2	時間数	30	
授業科目名	日本語表現の諸相		開講学期等	後期	時間割	木5・6	
授業科目名英字	Various Aspects of Japanese Expression						
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に 関係する授業科目	日本文化基礎論、国際文化理解			履修する際に前提 とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大橋純一	日本・アジア文化講座	3-135	018-889-2614				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 13:00-14:20		【場所】	研究室(3-135)		
授業の目的				授業の到達目標			
日本語および日本語表現に関する基礎知識を学び、自らの言語生活へのアプローチを通してその効用と課題を自覚する。それらを踏まえた言語活動(読む・聞く・話す・書くの4技能)を具体的に実践し、各技能の力を涵養することを目的とする。なお授業では、受講者どうしの議論、自己内省、調査発表等を随時行い、日本語学的な考察への橋渡しという側面も積極的に視野に入れていく。				1)日本語および日本語表現に関する基礎知識を習得し、その概要を説明できる。 2)得られた知見に基づき、事物・事象を適切に表現できる。 3)日本語表現の特質を自らの実践(読む・聞く・話す・書くの4技能)を踏まえて説明できる。			
カリキュラム上の 位置付け	教養基礎教育の主題別科目として、日本語および日本語表現に関する知見を深め、技法を習得し、それによる具体的な実践を行うことに力点を置く。また専門の日本文化論、日本語学への導入としての位置づけを持つ。						
授業の概要	情報化社会の中にあって、自分自身を的確に表現する力、発信された情報の意味を読み解く力がますます重要性を増している。この授業では、それらの力を確立することを目指し、まずは日本語表現の諸相(実態と技法)を実例にあたって体得することから始める。そのために、日常の言語生活に立ち返って調べ、他者とも議論し、日本語やそれによる表現法に関する知見を深めていく。またそれらの基礎知識を踏まえ、具体的な“表現”の実践を行い、いわゆる言葉の4技能に通底する力を養っていく。						
授業の進行予定 及び進め方	授業形態としては「講義」の立場をとるが、実際には受講者自身あるいは受講者どうしで考察を深めつつ、以下に掲げる各課題に取り組んでいくことを主体とする。 1. ガイダンス 授業の内容とその進め方 2. いい表現とは 表現内容なのか表現技法なのか 3. 話し言葉(スピーチ)の原理 自己紹介を通して 4. 書き言葉の原理 具体的な事例を通して 5. 論述形式 パターンの類型化 6. 論述形式 各論述パターンの功罪 7. レトリック 実例から学ぶ表現の妙 8. 小論文 「5」～「7」を踏まえての実践 9. 対話のケーススタディ 話題の振りりと話題への返し 10. 対話のケーススタディ 場面設定に基づいた実践 11. ディスカッション 主張と対応の要点 12. ディスカッション 「11」を踏まえての実践 13. プレゼンテーション パワーポイントの作成 14. プレゼンテーション パワーポイントによる発表 15. まとめ						
授業に関連する キーワード	日本語表現		スピーチ		論述形式		
	レトリック		対話力		ディスカッション		
	プレゼンテーション						
成績評価の方法	授業内での課題(小論文・ミニレポート・口頭発表・ディスカッション・プレゼンテーション)への取り組み(75%)、学期末に課すレポート兼筆記試験の内容(25%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。なお欠席5回の時点で評価はDとする。						
教科書 ・ 参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『コミュニケーション力』		斎藤孝	岩波新書	2004	
	参考書	『コミュニケーションの日本語』		森山卓郎	岩波ジュニア新書	2004	
教科書・参考書等 に関する記述欄	各回のテーマに即してプリントやパワーポイントを用いる。						
自由記述欄							

科目コード	5110300			単位	1	時間数	15
授業科目名	人権と共生 - ボランティア活動論 -			開講学期等	後期後半	時間割	水5・6
授業科目名英字	Human Rights IV:lecture on Volunteer Activities						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟1階事務室内	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
学生がボランティア活動を通じて地域社会の課題に積極的に取り組める基礎を養成する。				ボランティア活動の意義と必要性を理解し、自らもその活動に参加するという行動意欲を惹起する。			
カリキュラム上の位置付け	社会の一員として、共同で社会を支えるための基本的考え方、具体的行動喚起を促す科目として重要な位置付けである。						
授業の概要	【授業の概要】 県内外のボランティア活動団体の現状と課題、そして期待について、県内のボランティア・NPOの実践者から率直に提案していただく。授業担当者が決まり次第掲示により周知する。 詳細については、決定次第掲示するので、掲示に注意してください。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 						
授業に関連するキーワード	ボランティア		社会貢献		NGO		
	NPO		いのち				
成績評価の方法	毎回授業終了後に提出するレポートによる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特に使用しない。						
自由記述欄							

科目コード	5110320		単位	2	時間数	30	
授業科目名	多文化コミュニケーション入門 - 他者の文化を発見		開講学期等	後期	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Invitation to Multicultural Communication II						
備考	40名以内。人数が多い場合、課題により選考する。受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1・2(3・4)年		
内容的に密接に 関係する授業科目	「多文化コミュニケーション入門II」「日本文化入門I/II」「多文化間交流論I/II」「日本語教育学入門I/II」			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
牲川波都季	国際交流センター	般1-2階	018-889-2865				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 16:30-18:00		【場所】	研究室(般1-2階)		
授業の目的				授業の到達目標			
この授業では、自分にとって身近な「コミュニティ」とそのコミュニティの「文化」について考察することで、「コミュニティ」と「文化」の多様性・変容性・曖昧さについて認識する。その認識に至る鍵は、多様な背景を持つ他者(留学生や他の学部・学年の学生)との、さらには自分自身とのことばによるコミュニケーションであり、自他に対し自分の思考を積極的に表現することが求められる。その結果、他者との質の高い関係づくりが達成されよう。				1) 他者の生きる「コミュニティ」と「文化」について、深い理解を得る。 2) 「多文化コミュニケーション」の方法を体得する。 3) コミュニケーションすること、言語化することの意義を知る。			
カリキュラム上の 位置付け	ここでは、多様な背景を持つ留学生や日本人学生が相互にコミュニケーションし合う。その過程で、自他とのコミュニケーションに基づき、いかに思考を明確化していくか、その方法が体得できる(学問の方法)。また、各受講生はそれぞれの「コミュニティ」「文化」定義と、他者の生きる「コミュニティ」とその「文化」を、新たに発見していくことができる(学問の進展)。						
授業の概要	基本的には、留学生や日本人学生によるグループ・ディスカッションと、それに基づく課題の提出や発表からなるクラス。自らの思考の表現化が繰り返し課される授業であり、意欲的な受講生を望む。また今年度より、学期開始当初に教科書を読み感想文を書くという活動を新たに加える。これによりこのクラスの考え方や進め方を共有したい。ディスカッションとレポートの内容は、グループメンバーそれぞれを知ることを目指すものとなる予定だが、詳細な内容は、受講生の顔触れが決まったあと決定する。						
授業の進行予定 及び進め方	1) オリエンテーション(受講希望者は必ず出席すること) 2) コミュニティとは何か 3) グループ作り 4) 今学期のトピックの決定 5) グループディスカッション 1-1 6) グループディスカッション 1-2 7) 下書き1の読み合わせ 8) 下書き1の読み合わせ 9) グループディスカッション 2-1 10) グループディスカッション 2-2 11) グループディスカッション 2-3 12) 下書き2の読み合わせ 13) 下書き2の読み合わせ 14) 最終レポートの提出 15) 相互自己評価会						
授業に関連する キーワード	多文化コミュニケーション		グループ・ディスカッション		コミュニティ		
	相互自己評価		表現化				
成績評価の方法	成績評価(合計100ポイント) 1) 積極的な授業参加 30ポイント(目標1・2・3) 2) 提出物(締切・分量厳守で満点、遅れ・不足に応じて減点) 70ポイント(目標1・3) 合否判定基準 1) 上記の合計60ポイント以上で合格とする。 2) 欠席が6回に達した時点で評価はDとする。						
教科書 ・ 参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考	『わたしを語ることを求めて』		牲川波都季・細川英雄	三省堂	2004	
教科書・参考書等 に関する記述欄							
自由記述欄	受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。人数が多すぎる場合、第一回目の授業で課題を出し選抜する。 英語による文化交流・日本文化論・日本社会論に興味がある者には、本授業ではなく、多文化間交流論I/II、日本文化入門I/II・日本社会入門I/IIの						

科目コード	5110350		単位	2	時間数		
授業科目名	多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実践 -		開講学期等	後期	時間割	水5・6	
授業科目名英字	Putting Cross-Cultural Communication into Practice						
備考	一部集中講義，留学生も合わせて30名程度 通常の講義と11月の合宿の両方に参加できる学生のみ			授業の形式	演習・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	平成23年度入学者のみ		
内容的に密接に関係する授業科目	他の国際交流関連科目			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
宮本律子	教育文化学部	教3-229	018-889-2688				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	宮本研究室（教3-229）		
	授業の目的			授業の到達目標			
	異(こと)なる文化(ぶんか)背景(はいけい)を持(も)つ相手(あいて)とのコミュニケーションの仕方(しかた)を模索(もさく)する			(1) 色々な文化的(ぶんかてき)背景(はいけい)を持(も)つ者(もの) (異(こと)なる出身地(しゅっしんち)、異(こと)なる学部(がくぶ)、異性(いせい)など)が真(ま)に深(ふか)い交流(こうりゅう)を行(おこな)う (2) 自分(じぶん)の思考(しこう)・行動(こうどう)様式(ようしき)を客観視(きゃっかん)する			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	【授業の概要】 この授業は、前半（授業7回）と後半（11月後半）に実施する2泊3日の北東北三大学合同合宿と合宿後の授業2コマからなる。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 【前半】 10月第1週～11月第3週 授業では、学内の多様（たよう）な背景（はいけい）をもつ学生同士で、コミュニケーションゲームや討論（とうろん）などのグループ活動を通して、交流（こうりゅう）を深（ふか）める。 【後半】 11月後半におこなう合宿および12月3日、10日（授業） 合宿（がっしゅく）では、興味のあるテーマについて、共同（きょうどう）で作品（さくひん）を完成（かんせい）させるなどの作業をおこなう。 例（たと）えば、「私の幸せ」などのトピックに関するビデオ作品または電子紙芝居作成制作などが考（かん）がえられる。発表はおもにPowerPointを使う。 この授業（じゅぎょう）は「行動型（こうどうがた）」授業（じゅぎょう）であり、受け身（うけみ）の態度（たいど）では単位（たんい）は認定（にんてい）しない。 特（とく）にグループ活動（かっどう）が多いので、無断（むだん）欠席（けっせき）、締切（しめきり）を守（まも）らないなどの態度（たいど）は、グループによる成績（せいせき）評価（ひょうか）に影響（えいきょう）する。 11月の多文化合宿に参加しなければならないが、達成感（たっせいかん）を得（え）られることは保障（ほしょう）する。 秋田大学の他学部の学生や岩手大学、弘前大学の学生（留学生も含む）など、色々な人と友達になれること請（う）け合（あ）います！						
授業に関連するキーワード	多文化交流		異文化交流		協同作業		
	ピア・ラーニング						
成績評価の方法	11月に実施する合宿に参加できる学生のみが対象となる 授業参加度30%、発表2回（授業中1回と合宿で1回）30%、最終個人レポート40%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に定めない						
自由記述欄							

科目コード	5110352			単位	2	時間数	30
授業科目名	多文化間交流論 - 異文化コミュニケーションの実			開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Putting Cross-Cultural Communication into Practice						
備考	一部集中講義，留学生も合わせて30名程度 通常の講義と11月の合宿の両方に参加できる学生のみ			授業の形式	演習・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生			
内容的に密接に関係する授業科目	他の国際交流関連科目			履修する際に前提とする授業科目	特になし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
宮本律子	教育文化学部	教3-229	018-889-2688				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	宮本研究室（教3-229）		
	授業の目的			授業の到達目標			
	異(こと)なる文化(ぶんか)背景(はいけい)を持つ相手(あいて)とのコミュニケーションの仕方(しかた)を模索(もさく)する			(1) 色々な文化的(ぶんかてき)背景(はいけい)を持つ者(もの) (異(こと)なる出身地(しゅっしんち)、異(こと)なる学部(がくぶ)、異性(いせい)など)が真(しん)に深(ふか)い交流(こうりゅう)を行(おこな)う (2) 自分(じぶん)の思考(しこう)・行動(こうどう)様式(ようしき)を客観視(きゃっかん)する			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	【授業の概要】 この授業は、前半（授業7回）と後半（11月後半）に実施する1泊2日の北東北三大学合同合宿と合宿後の授業2コマからなる。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 【前半】 10月第1週～11月第3週 授業では、学内の多様（たよう）な背景（はいけい）をもつ学生同士で、コミュニケーションゲームや討論（とうろん）などのグループ活動を通して、交流（こうりゅう）を深（ふか）める。 【後半】 11月後半におこなう合宿および12月に2回（授業） 合宿（がっしゅく）では、興味のあるテーマについて、共同（きょうどう）で作品（さくひん）を完成（かんせい）させるなどの作業をおこなう。 例（たと）えば、「私の幸せ」などのトピックに関するビデオ作品または電子紙芝居作成制作などが考（かん）がえられる。発表はおもにPowerPointを使う。 この授業（じゅぎょう）は「行動型（こうどうがた）」授業（じゅぎょう）であり、受け身（うけみ）の態度（たいど）では単位（たんい）は認定（にんてい）しない。 特（とく）にグループ活動（かっどう）が多いので、無断（むだん）欠席（けっせき）、締切（しめきり）を守（まも）らないなどの態度（たいど）は、グループによる成績（せいせき）評価（ひょうか）に影響（えいきょう）する。 11月の多文化合宿に参加しなければならないが、達成感（たっせいかん）を得（え）られることは保障（ほしょう）する。 秋田大学の他学部の学生や岩手大学、弘前大学の学生（留学生も含む）など、色々な人と友達になれること請（う）け合（あ）います！						
授業に関連するキーワード	多文化交流	異文化交流		協同作業			
	ピア・ラーニング						
成績評価の方法	11月に実施する合宿に参加できる学生のみが対象となる 授業参加度40%、発表3回（授業中2回と合宿で1回）30%、最終個人レポート30%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に定めない						
自由記述欄							

科目コード	5110370			単位	2	時間数		
授業科目名	日本文化入門 - An Introduction to Japanese			開講学期等	後期後半	時間割	木7~10	
授業科目名英字	An Introduction to Japanese Culture							
備考				授業の形式	講義・実習	必修・選択	選択	
				受講対象学生	留学生・日本人学生			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	WED 16:00-17:00			【場所】	般1, 2階		
授業の目的				授業の到達目標				
This is the course designed for international students who have just started their university life in Akita and Japanese students who are interested in communicating with international students and introducing them to the local culture and society. 本講義は日本語と英語を併用します。				The course is held in order to guide international students into Japanese socio-cultural environment so that they can function comfortably and effectively on and off campus. It is also the purpose of the course that Japanese students become capable of supporting international students in their exploration of Japanese culture and society.				
カリキュラム上の位置付け								
授業の概要	【授業の概要】 This course will provide students with cultural, historical, geographical means of exploring "Akita". Topics examined concern history and phenomenon of Akitan society, religions, arts and crafts, literature. Emphasis will be placed on cultural context in Akitan tradition.							
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1. course orientation 2. video session TBA 3. video session: traditional culture 4. tea ceremony workshop 5. project preparation (1) 6. field trip (1): public facilities 7. field trip (2): TBA 8. project preparation (2) 9. field trip (3): Museum 10. project preparation (3) 11. field trip (4): factory visit 12. project preparation (4) 13. field trip (5): TBA 14. Oral presentation 15. Oral presentation Individual Project: Research & Presentation Practice: Teams of Japanese and int'l students will choose a topic related to daily							
授業に関連するキーワード	Local culture		Experiential learning			Japanese culture		
成績評価の方法	Final grades will be based on attendance, participation, reports, presentations, and projects.							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	Attendance 20%, oral presentation 30%, presentation materials 30%, report 20%							
自由記述欄	Maximum participation in the course work by students is expected. 日本人学生の積極的な参加を期待します。							

科目コード	5110390			単位	2	時間数	
授業科目名	日本社会入門			開講学期等	後期	時間割	月3・4
授業科目名英字	An Introduction to Japanese Society						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	留学生及び日本人学生		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
オフィスアワー	【曜日及び時間】	WED 16:00-17:00		【場所】	general ed bldg#1 2F		
授業の目的				授業の到達目標			
This course aims at students' understanding of basic structural features of the Japanese language, which will help their learning in Japanese language courses. They are required to work on a series of short assignments and take the midterm and final examinations. Students should have completed one year of Japanese at the University of Iowa or equivalent prior to taking this course. The course is taught in English and Japanese. 本講義は日本語と英語を併用します。				Upon the completion of this course, students will: -Understand how the Japanese language developed, and what kind of relationship the Japanese language has with other languages. -Have an ability to critically analyze basic ungrammatical or awkward sentences and be able to correct them. -Have a general understanding of how the Japanese language works as a communication system.			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	【授業の概要】 This sociolinguistics course explores topics such as intercultural communication, language and emotion, language and identity, language and ideology, and language borrowing, using Japanese language as an example. The course will provide students with ample opportunities to address questions concerning Japanese and the students' mother tongues. Students will be encouraged to share their own observations of Japanese language and its speakers in class.						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1. Introduction 2. Language and Setting, & Sound System of Japanese 3. Sound System of Japanese & Writing 4. Lexicon 5. an Overview of Japanese Grammar 6. Japanese Discourse, Lexicon, & Particle 1 7. Particles 2 8. Person 9. Tense and Aspect 1 10. Tense and Aspect 2 11. Conditional clauses & Diexis 12. Passive and Causative sentences 13. Modal Expressions 14. Presentation 15. Presentation						
授業に関連するキーワード	Japanese	Linguistics		Contrastive Linguistics			
	日本語	言語学		対照言語学			
成績評価の方法	Assignments 25% Class presentation 10% Midterm 30% Final Examination 35%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『Introduction to Japanese Linguistics』		Natsuko Tsujimura	Wiley-Blackwell	2006 (2nd)	
	参	『ベーシック現代の日本語学』		日野資成	ひつじ書房	2009	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	平易な英語を用いますので、日本人学生の積極的な参加を期待しております。						

科目コード	5110410			単位	2	時間数	
授業科目名	日本語教育学入門			開講学期等	後期	時間割	月1・2
授業科目名英字	Introduction to Japanese Language Education						
備考				授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
				受講対象学生	交換留学生，全学部 1・2(3・4)年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
市嶋典子	国際交流センター	204号室	018-889-2938				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日16:30-18:00		【場所】	一般教育一号館204号室		
授業の目的				授業の到達目標			
日本語教育学の歴史の変遷を踏まえ、日本語を教えること、日本語教育を研究する意味は何かを考察し、自らの言語観、言語教育観を明らかにする。				<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育学についての深い理解を得る。 ・日本語教育学関連の先行文献を読み、日本語教育学を批判的に捉え直す。 ・授業観察を通し、日本語教育実践の意義と課題を理解する。 ・自身の学習観を振り返り、言語観、言語教育観を構築する。 			
カリキュラム上の位置付け	日本語教育学についての概論的授業						
授業の概要	日本語教育学の歴史的背景、日本語教育実践研究の意義と課題、言語観、言語教育観を考察する。基本的には、留学生、日本人学生の協働的な言語活動とそれに基づく課題提出、授業観察の報告によって授業を進める。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1週 オリエンテーション 第2週 日本語教育学とは何か 第3週 先行文献の考察 第4週 先行文献の考察 第5週 自身の目指す日本語教育とは何かを考察する 第6週 問題設定・調査の方法 第7週 調査の報告 第8週 調査の報告 第9週 調査の報告 第10週 発表・ディスカッション 第11週 発表・ディスカッション 第12週 自身の目指す日本語教育とは何かを再考する 第13週 クラスメンバーでレポートを読み、ディスカッションする 第14週 クラスメンバーでレポートを読み、ディスカッションする 第15週 相互・自己評価活動、ふりかえり						
授業に関連するキーワード	日本語教育学	言語教育観		学習観			
	実践研究	協働					
成績評価の方法	成績評価は100点を満点とし、以下のように配分する。 レポート50点，課題30点，相互評価10点，自己評価10% 総合60%を合格とする						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『日本語教育学序説』		蒲谷宏・細川英雄	朝倉書店	2012	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120040		単位	2	時間数	30	
授業科目名	自然環境と資源 B - 地球環境と化学元素 -		開講学期等	後期	時間割	月1・2	
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目	特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学I, IIを履修していなくても、学習によって理解できる内容です。			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで		【場所】	教文3-218		
授業の目的				授業の到達目標			
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解				1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要	【授業の概要】 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量と機能 9, 微量化学成分の化学分析 10, 水質および大気モニタリング 11, 光と物質の相互作用 12, 大気の化学組成とその変遷 13, 地球環境での炭素の存在量とその循環 14, 地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15, 同、(2)酸性雨と硫酸化合物 16, 同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ						
授業に関連するキーワード	地球環境		大気圏		海洋		
	生体		化学元素		必須元素		
	有毒元素						
成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。						
自由記述欄							

科目コード	5120061			単位	2	時間数	30
授業科目名	地球の環境と資源 B - 地層の話 -			開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Global Environment and Resources IV B: Introduction to Geological Sciences						
備考	なし			授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	とくになし			履修する際に前提とする授業科目	とくになし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
(責)内田 隆	工学資源学部	工資2-B304	889-2652	佐藤時幸	工学資源学部	工資2-G214	889-2371
大場 司	工学資源学部	工資2-G307	889-2374				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 12:00～12:30		【場所】	工資2-B304		
授業の目的				授業の到達目標			
地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。				1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然現象認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的过程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに、日常生活のあり方について考察できる。			
カリキュラム上の位置付け	本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが、特別な予備知識を前提しない。						
授業の概要	【授業の概要】 基礎編 1. ガイダンス 2. 地球の誕生：地球科学の基礎 3. 地層は時計である：地質学的認識の基礎 4. 古生物の進化の記録と地質時代区分：地質時代区分は何を根拠にしているか						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 詳細については、初回のガイダンスで説明する。						
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）		進化			
	マグマ	火山噴火		地球環境変遷			
	プレートテクトニクス	ハイドレート					
成績評価の方法	出席の状況および期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、毎回の講義に資料を配付する。必要に応じて参考書を紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5120081			単位	1	時間数	15
授業科目名	環境と社会 B - 地域環境とインフラストラクチャー -			開講学期等	後期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
日野 智	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2359	浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2974
徳重 英信	工学資源学部	工資1-412	018-889-2367	松富 英夫	工学資源学部	工資1-416	018-889-2363
荻野 俊寛	工学資源学部	工資1-419	018-889-2364				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義終了時にアポイントを取って下		【場所】	各教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後具体的に整備例について履修する。				1.社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2.地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 4.社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。						
授業の概要	社会資本の整備理念と手法について学び、具体的な整備例を履修する。また、安全・安心な社会環境とするため、諸種の自然災害の基本についても学ぶ。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中の鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境						
授業に関連するキーワード	社会基盤		社会資本整備の理念		都市と交通		
	建設構造物		建設材料		地盤災害		
	水環境						
成績評価の方法	レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120090		単位	2	時間数	30	
授業科目名	ライフサイエンス - 生命の連続性 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Life Science II:Continuity of the Life						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石井照久	教育文化学部	教文4号館309・2681	2681				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16時-18時		【場所】	教文4号館309		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 生命は生命より生じ連続していく。ライフサイエンスのうち、この授業では生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から学ぶことによって、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを理解することを目的とする。 2) ライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを理解することを目的とする。				1) 生命観の歴史的変遷を説明できる。 2) 地球上での生命の歴史を概説できる。 3) 細胞のしくみ、生殖のしくみ、遺伝のしくみを説明できる。 4) 現代の生命科学技術の概略を説明できる。 5) 進化学を理解し、現代人の起源を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	教育文化学部1年で自然環境選進学希望者、および医学部1年で高校生物未履修者は、それぞれの専門分野のよい導入教育となるのでお勧めである。またその他の人にとっても21世紀に生きるうえで必須となるライフサイエンス(生命科学)関連の常識を解説する。						
授業の概要	【授業の概要】 ライフサイエンスのうち、生命の遺伝、生殖、進化などをミクロとマクロの両面から解説し、生命が誕生して以来、どのように現在までの道のりをたどってきたのかを概説する。またライフサイエンスの進歩の現状と、生命を取り巻く状況がどのように変化しているのかを概説する。期末試験は持ち込みなしで行う。ただ出席しているだけでは単位が取得できない科目であり、受講生の主体性を求めるとてもきびしい科目である。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 以下1回目から15回目までの進行予定です。本授業では、教科書を使用しますので教科書をあらかじめ購入して下さい。また授業時に教科書を持参して下さい。授業では教科書の内容すべてを扱うことは無理なので、各自読み進めておいて下さい。授業で扱えない部分も非常に為になるので、ぜひ教科書を購入して読んで下さい。なお各項目の後に教科書以外で各項目に関連する参考図書のうち1冊を記載しましたので参考にして下さい。講義全体の参考図書は参考図書欄を見て下さい。の部分は視聴覚教材を予定しています。 1. ガイダンス、第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり「目でみる生物学(三訂版)」 2. 第1章 生命観の変遷 1) 生物学の始まり+ 「目でみる生物学(三訂版)」 3. 第1章 生命観の変遷 2) 自然発生説について 「目でみる生物学(三訂版)」 4. 第2章 生命の誕生について その1) 「図説 生物の世界(三訂版)」 5. 第2章 生命の誕生について その2) 「図説 生物の世界(三訂版)」 6. 第3章 生命とは細胞とは 「好きになる生物学」「生物学超入門」 7. 第4章 生命の連続 1) 無性生殖と有性生殖 「遺伝子と夢のバイオ技術」 8. 第4章 生命の連続 2) 生命の連続性 「絵でわかる生命のしくみ」 9. 第4章 生命の連続 3) 遺伝子DNAとRNAとタンパク 「遺伝子時代の基礎知識」 10. 第5章 現代の生命科学技術 1) 人体製造 - 再生医療 - + 11. 第5章 現代の生命科学技術 2) 遺伝子と医療+ 12. 第6章 進化学 1) 用不用説、獲得形質の遺伝説、自然淘汰(自然選択) 13. 第6章 進化学 2) 分子の進化、現在の進化説 「分子進化学への招待」						
授業に関連するキーワード	生命	細胞	連続性				
	遺伝子DNA	生命科学技術	iPS細胞				
	進化						
成績評価の方法	出席率が2/3以上であることを前提とします。毎回出席をとります。そして授業中の課題点(満点10点)と期末試験点(持ち込みなし)(満点90点)の合計が60点以上で合格とします。なお追試は行わないので注意してください。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『"生きていて"ってどういうこと? 生命のしくみを』				培風館	
	参考書	『目でみる生物学(三訂版)』				培風館	
	参考書	『遺伝子と夢のバイオ技術』				羊土社	
	参考書	『ゲノムでわかることできること』				羊土社	
	参考書	『資源化する人体』				現代書館	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書(続き): 「遺伝子組み換え動物」「遺伝子組み換え(食物編)」以上現代書館 「分子進化学への招待」「遺伝子時代の基礎知識」「好きになる生物学」「好きになる人間生物学」「絵でわかる生命のしくみ」「絵でわかる生物の不思議」「絵でわかる進化論」以上講談社 「図説 生						
自由記述欄							

科目コード	5120101			単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンス B			開講学期等	後期前半	時間割	火5・6
授業科目名英字	Life Science IIIB						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館312号室	018-889-2590				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時		【場所】	教育文化4号館312号室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ、犯罪捜査にはDNAが欠かせません。このような事象を理解するための基礎として、メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。遺伝学へ興味をもってもらうことが第2の目的です。</p>				<p>1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を説明できる。 3) 簡単な入試問題を解くことができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	教養教育						
授業の概要	メンデル遺伝の問題を解くことで、遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため、すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので、1回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。						
授業の進行予定及び進め方	<p>講義は以下の6項目にそって進めます。 この理解を深めるため、- の演習問題を用意しています。</p> <p>1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子</p> <p>演習： 一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 伴性遺伝を理解するいろいろな問題</p>						
授業に関連するキーワード	メンデル遺伝		染色体		タンパク質		
	減数分裂		伴性遺伝		DNA		
	形質						
成績評価の方法	課題，試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	高校生物のメンデル遺伝を習っていない人，習ったけれどほとんど理解できなかった人を対象にしています。						

科目コード	5120161		単位	2	時間数	30	
授業科目名	コンピュータの科学 B - コンピュータ科学の基礎 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Computer Science IB:Fundamentals on Computer Science						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		コンピュータリテラシーにかかわる基礎科目（情報処理の技法、情報処理入門、情報処理）を履修していることが望ましい。				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木重雄	教育文化学部	教文4 - 4 1 3	018-889-2763				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水 15:00～17:00		【場所】	教文4 - 4 1 3		
授業の目的				授業の到達目標			
コンピュータ内部におけるデータ表現である二進数、および、その処理の仕組みを学ぶ。特にデジタル処理の基礎としてブール代数および論理回路を学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"> 情報のデジタル化について説明できる。 データ表現とその処理について説明できる。 論理演算（ブール代数の演算）ができる。 デジタル回路（組合せ回路および順序回路）の記号を理解し、簡単な回路設計ができる。 			
カリキュラム上の位置付け	コンピュータの利用に関する授業（情報処理の技法、情報処理入門、情報処理）と対になる形で、情報の表現およびコンピュータの動作原理を学習する						
授業の概要	コンピュータが扱うデータであるデジタル情報について、その性質、および、その処理方法の原理を学習する。最終的に、デジタル情報を扱うハードウェアとしての論理回路の設計方法までを学習する。主に取り上げる内容は、(1)アナログ情報とデジタル情報の違い、(2)2進数の計算、(3)数値以外のデジタル情報、(4)ブール代数、(5)論理回路である。						
授業の進行予定及び進め方	<p>授業概要は以下のとおりに進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと基礎知識（1回） 2. 2進数と情報のデジタル表現（3回） 4. 2進数の計算（2回） 5. ブール代数（4回） 6. 論理回路（5回） <p>全て講義で行い、板書を中心とする。 4, 5, 6の最後に小テストを行う。基本的には教科書に従って行う。 教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。</p>						
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数		デジタル回路			
	データ表現	2の補数表現		浮動小数点数表現（IEEE754）			
	カルノー図	組合せ回路		順序回路			
成績評価の方法	成績評価は3回の試験（所要時間は、各々およそ30分）を合計した点数で行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『情報の表現とコンピュータの仕組み』		青木征男	ムイスリ出版	2009	
	参考書	『コンピュータシステム入門』		都倉信樹	岩波書店	2002	
	参考書	『「コンピュータの構成と設計」上・下』		バターソン、ヘネシー	日経BP	2011	
	参考書	『計算機科学の基礎』		八村広三郎	近代科学社	1989	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	工学資源学部情報工学科は、カリキュラム上、履修内容の重複が多いため受講しないでください。						

科目コード	5120171		単位	2	時間数	30	
授業科目名	コンピュータの科学 B - グラフとアルゴリズム -		開講学期等	後期	時間割	水5・6	
授業科目名英字	Computer Science IIB:Graph and Algorithm						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学I		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765	2765				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 午後2時30分～午後5時		【場所】	4-412		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。</p>				<p>以下の2点を到達目標とする。 1) グラフ理論の基礎事項を理解する。 2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。</p>						
授業の概要	<p>【授業の概要】 グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。</p>						
授業の進行予定及び進め方	<p>【進行予定と進め方】 具体的には以下の順に講義を進める。 1) グラフ理論の基礎 1. グラフとはなにか 2. 木・連結性・分割 3. 周遊・線グラフ 4. 被覆・平面グラフ・4色定理 5. 色分け可能性・グラフと行列 6. グラフと群・有向グラフ 2) アルゴリズムへの応用 7. アルゴリズムの基礎 8. アルゴリズムとデータ構造 9. アルゴリズムと木 10. アルゴリズムと有向グラフ 11. アルゴリズムと無向グラフ 12. アルゴリズムとオイラー・ハミルトングラフ 3) まとめ 13. まとめと試験対策</p>						
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学		グラフ理論		アルゴリズム		
成績評価の方法	レポート(20%)，試験(80%) 総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	オリジナルの講義冊子のファイルをa・netの「キャビネット」に置いておくので、受講希望者はあらかじめダウンロードして印刷した状態で持参すること。(「学生」フォルダ内の「授業関係資料」フォルダ内の「上田晴彦」フォルダで、対応するファイルをダウンロードしてください。)						
自由記述欄	講義冊子がないと、授業を受講する際に大きな支障となります。必ず事前にプリントアウトして持参してください。						

科目コード	5120180		単位	2	時間数	30	
授業科目名	生活の科学 - 住まいの環境学 -		開講学期等	後期	時間割	木5・6	
授業科目名英字	Family and Consumer Science II: Building Environmental Science						
備考	受講定員40名以内 (実験・見学などの内容を含むため)			授業の形式	「講義」、一部に	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に係る授業科目	教育文化の学生は、西川担当の専門科目「住生活**論」、「住生活実験・実習」。工学資源・医学部の学生は、特になし。			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西川 竜二	教文・生活者科学講座	教1-302	0188892691				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜15:00～16:00		【場所】	担当教員の教員室(教1-302)		
授業の目的				授業の到達目標			
「人にやさしい住環境を、地域や地球にやさしい方法でつくる」ことを科学的に考える。住環境は、主に暖かさ・涼しさを対象とする。自分の身近な住まいから環境問題の解決を考え実践していく見方・考え方を養う。				1)「人にやさしい住環境」、それを「地域や地球にやさしい方法でつくる」について説明できる。例えば、人に健康・快適な住環境の条件とは? 今日の住宅の冷暖房照明技術等の発展が健康にもたらした恩恵。一方、現在の人工的環境での生活が健康に与える悪影響。目指すべき住環境とはどのようなものか? 住生活様式とエネルギー消費・環境負荷の関係 地域の伝統民家や現代の環境共生建築と呼ばれる建物に備わる、太陽の光・熱など自然のポテンシャルを利用して住環境を調整する方法 住宅断熱の個人・社会的な意義 秋田や東北地方の住宅熱環境の特徴、特に高齢社会における健康課題。 2)上記1)を踏まえ、自分の身近な住環境に関心を持ち、その現状を評価し、具体的な改善方法を考え・実践できる。			
カリキュラム上の位置付け	秋田大学では基本的目標の1つに『「環境」と「共生」を課題とした独創的な研究活動を行う』ことを掲げています。本授業では、誰にとっても身近な住生活における「環境」と「共生」に関する問題について、科学的な見方・考え方を学びます。これにより、環境共生に貢献する研究や活動を行える人材に育つための素地を養います。また、目的・主題別としては、「学問の進展」を重視。						
授業の概要	【授業の概要】 授業は、プリント・スライドによる講義、関連の演習・実験等で進行。序盤は、人に快適な環境とは何かについて、人の快適性の生理心理、現代の住環境と健康課題、現代の住生活と環境負荷、地域の伝統的な住まい、を通して見方・考え方を養います。中盤に、学生参加型の住居模型実験で環境共生住宅の工夫とそれがもたらす快適環境を確かめ、その工夫の原理や実践方法を後半の授業で学びます。体験と結びついた生活実践につながる知識の習得をめざして、授業中の実験・演習や自宅の住環境の測定調査の課題、実験結果のグループ考察・発表等を取り入れて体験・参加的に学びます。事前の専門的な知識は不要(文系OK)です。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】内容・順番は以下を予定。 【01 ガイダンス】 シラバスの説明/住環境学とは/授業全体の概要と問題提起 受講定員40名超の場合は受講希望の再確認・調整(抽選等)を行います。 【02～03 建築の形態・機能】 植物の地域性・多様性(植生気候図)/伝統建築の地域性・多様性(民家気候図)/伝統建築文化と現代建築文明(パッシブ型技術とアクティブ型技術)/照明暖冷房技術の発展と近現代建築の形態の変遷 【04 秋田の伝統民家の見学】 旧金子家住宅の見学(秋田市大町;手形から徒歩・自転車で移動) 【05 秋田の伝統民家の考察】 見聞したことの発表・解説/伝統的な住宅・住まい方の現代への適応可能性 【06～07 冬暖かく夏涼しい住環境づくり(学生参加型の住居模型実験/VTR視聴)】 少人数のグループで実施。良好な住環境を形成する建築的工夫(素材や形態の知恵・技術)の効果を住居模型を用いて実験。受講生自ら手と頭を動かして体験的に納得する。/実験の順番待ちの学生は、伝統民家の夏涼しい家づくりの技術に関するVTR視聴。 【08～09 模型実験の考察】 実験結果の理論考察による理解と実践例。受講生のグループ討論と発表に対する教員の解説で進める。 【10 冬季の住宅熱環境の現状と高齢社会の課題】 冬季の住宅内温度差「ヒートショック」の危険/高齢者の温熱生理・心理の特徴/東北の住宅における冬季の熱環境の実態と健康課題 ----- * 冬季休業中の課題「自宅の冬季における熱環境調査」(配付の液晶温度計により温度測定し、住宅熱環境の健康・快適性を診断) ----- 【11～15 住まいの断熱・蓄熱】 断熱の価値/断熱住宅の建て方(外断熱と内断熱)/パッシブソーラーハウス/断熱性能を活かした夏の住まい/住宅の断熱・蓄熱構造による室温変化の模型実験						
授業に関連するキーワード	地域の気候と建築環境	住環境と健康・快適	住生活と省エネ・環境負荷				
	地域・秋田の伝統住居	環境共生建築の技術(建物・設備)	環境共生型の住まい方				
	冬季の住宅暖房環境の現状と課題						
成績評価の方法	ア)授業中の課題(要約・意見感想・演習など、一部宿題の場合もあり)(60点、到達目標1)、イ)伝統民家の見学の小レポート(10点、到達目標1・2)、ウ)住居模型実験の小レポート(10点、到達目標1)、エ)冬季休業中の課題レポート「自宅の冬季における熱環境調査」(20%、到達目標2)成績は100点満点に換算し、S:90～100、A:80～89、B:70～79、C:60～70、D:60未満とし、Dを不合格とする。注意:欠席が5回の時点で不合格とする。上記イ)ウ)エ)の全ての提出を成績評価の必要条件とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考	『「住まいの中の自然」「エコハウジングの勧め』	小玉祐一郎				
	参考	『環境建築読本』	日本建築家協会編				
	参考	『シリーズ「土曜建築学校」1～3巻』	建築資料研究所				
	参考	『百の知恵双書』の住居関連の巻02,08,12,17』		農文協			
参考	『地球生活記 世界ぐるりと家めぐり』	小松義夫					
教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書は使用しない。プリント配付。・参考書は、大学図書館に蔵書のあるものを例示。						
自由記述欄	本授業は実験と考察の発表や見学など、学生参加型の内容・方法を含みます。また、冬休み中に自宅の環境調査の宿題が出ます。見学・実験・調査が良かったという受講生も居ますが、課題等が多かったという受講生も居ます。住環境に興味があり、積極的に参加できる学生が受講して下さい。						

科目コード	5130030			単位	2	時間数	30
授業科目名	食と健康 - 栄養の分子生物学 -			開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Diet and Health: Molecular Biology of Nutrition						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池本 敦	教育文化学部	教育1-204	018-889-2553				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜 14:30-17:00		【場所】	教育1-204 (電話: 889-2553)		
授業の目的				授業の到達目標			
栄養素の生体内での役割や遺伝子との関係を分子レベルで理解することで、食生活と健康との関わりの基礎科学を学ぶ。				1) 栄養学の成り立ちとその生命科学における位置づけを理解する。 2) 栄養素の機能を理解するための生化学と分子生物学の基礎を身につける。 3) 代表的な栄養素の機能を分子レベルで説明できる。 4) 食生活と生活習慣病との関わりや遺伝子組換え食品など、食の安全に関する最近の問題点を指摘・説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	食品成分や栄養素を題材として、生化学と分子生物学の要点を講義する。栄養学は生命科学の応用的領域であり、生物学や化学の知識を実生活に結びつけるような内容を取り扱う。高校の化学・生物の未履修者は本授業によって当該分野の内容に触れることができる。また、ヒトが生活していく上で必要な食の安全と健康に関する教養的題材を扱う。						
授業の概要	1～3回は、総論として生命科学領域における栄養学の背景と分子栄養学の目的について概説する。また、分子栄養学の理解に必要な基礎知識(有機化学、生化学、分子生物学)を扱う。4～12回は、各論として、それぞれの栄養素を取り上げ、その生体内での役割と健康との関係を解説する。13～16回は、再び総論に戻り、食と生活習慣病や肥満との関係、遺伝子組換え食品について扱う。						
授業の進行予定及び進め方	原則として1回の授業でそれぞれ下記の項目1つを講義する。 1) ガイダンス：生命科学領域における栄養学の成り立ちと目的 2) 総論：生体を構成する物質と細胞 3) 総論：分子栄養学とヒトの遺伝子 4) グルコース代謝と糖尿病 5) タンパク質・アミノ酸と生体機能 6) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康(1) 7) 必須脂肪酸バランスと病態、食用油脂と健康(2) 8) コレステロール代謝と健康 9) 抗酸化物質やビタミンC・Eと活性酸素・フリーラジカル 10) -カロチン・ビタミンAと視覚機能・遺伝子発現 11) ビタミンD・カルシウムと骨形成・細胞内情報伝達 12) 必須無機元素の生体内機能 13) 生活習慣病の遺伝子と栄養 14) 肥満と遺伝子 15) 遺伝子組換え食品 16) 期末試験						
授業に関連するキーワード	栄養	食品		生化学			
	分子生物学	遺伝子		生活習慣病			
成績評価の方法	出席票による授業要約30%、試験50%、レポート20%で評価する。ただし、出席率が2/3以上であることが単位取得の必須条件とする。詳細な評価基準は初回の授業で説明するが、出席は出席票を記入することによりとる。試験は出題範囲を分割して、複数回実施する。レポートは、最終講義の時に課題を提示する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『分子栄養学』		榊原隆三 編	建帛社	2003	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、通じページ番号の付いた資料を毎回の授業で配布し、教科書的に使用する。従って、授業で配付された資料は全て毎回持参すること。また、参考書は適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5130041			単位	1	時間数	15
授業科目名	医学と健康 B - 健康と疾患の基礎知識 -			開講学期等	後期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Medical Science and Health IB:Health and Disease						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
後藤明輝	医学部		6062	美作宗太郎	医学部		6092
南條 博	医学部		6182	大森 泰文	医学部		6060
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜 7 . 8 時限		【場所】	医学部基礎棟2階器官病態学講座研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ。				肉眼、顕微鏡での人体の観察を通じ（目で見て）、人体の正常、異常（病気）、そして死について理解する。			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6) 本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する。						
授業の概要	【授業の概要】 病理学、法医学に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。 いずれの学問領域も肉眼的観察、顕微鏡を用いた観察など“目で見て理解する”ことが基本となる。これらの知識は分子レベルでの理解と組み合わせることにより、健康と疾患に関するより深い理解へと受講者を導くであろう。						
授業の進行予定及び進め方	10月1日：病気を目で見ると（病理学入門）担当：後藤明輝 10月8日：呼吸器疾患を目で見ると 担当：後藤明輝 10月15日：身体構造と機能 担当：美作宗太郎 10月22日：身近な法医学 担当：美作宗太郎 10月29日：腫瘍・癌とは？ 担当：大森泰文 11月5日：外科病理学入門（病理学と医療）担当：南條 博 11月12日：さまざまな疾患の病理学 担当：南條 博 11月19日：消化器疾患を目で見ると 担当：大森泰文						
授業に関連するキーワード	病理学	法医学		腫瘍			
	健康						
成績評価の方法	出席状況（2/3以上）とレポート（提出必須）による評価。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『はじめの一步のイラスト病理学』		深山正久ら	羊土社	2012	
	参考書	『入門病理学（病気の形態となりたち）』		町並陸生	丸善出版	2011	
教科書・参考書等に関する記述欄	講義内容をさらに学ぶためには、ここに挙げた参考書が役立つ。						
自由記述欄							

科目コード	5130061			単位	2	時間数	30
授業科目名	医学と健康 B - 加齢と保健医療 -			開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Medical Science and Health IIB:aging and health care						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
浅沼 義博	医学系研究科保健学専攻	C-112・6524	6524	ほか看護学専攻教員			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜担当教官と連絡		【場所】	適宜担当教官と連絡		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 加齢に伴う身体的精神的変化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。				1) 加齢に応じた健康保持法, 医療への関わり, 医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し, 高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について, 具体的に問題提起し考察することができる。			
カリキュラム上の位置付け	加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。						
授業の概要	【授業の概要】 加齢に伴う身体的精神的変化を理解し, 高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探究する。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 担当 講義の内容 1. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 10/3/13 高齢社会における保健医療福祉の課題(1) 2. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 10/10 高齢社会における保健医療福祉の課題(2) 3. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 10/17 加齢と在宅ケア(1) 4. 中村 順子 : 地域・老年看護学講座 10/24 加齢と在宅ケア(2) 5. 鈴木 圭子 : 地域・老年看護学講座 10/31 高齢者の心のケア(1) 6. 鈴木 圭子 : 地域・老年看護学講座 11/7 高齢者の心のケア(2) 7. 永田美奈加 : 地域・老年看護学講座 11/14 高齢者のケア 8. 浅沼 義博 : 臨床看護学講座 11/21 加齢と手術(1) 9. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 11/28 加齢と身体機能変化(1) 10. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 12/5 加齢と身体機能変化(2) 11. 百田 芳春 : 基礎看護学講座 12/12 加齢と身体機能変化(3) 12. 山口 典子 : 基礎看護学講座 12/19 加齢と栄養(1) 13. 山口 典子 : 基礎看護学講座 1/9/14 加齢と栄養(2) 14. 山口 典子 : 基礎看護学講座 1/23 加齢と栄養(3) 15. 浅沼 義博 : 臨床看護学講座 1/30 加齢と手術(2) 16. テスト 2/6 記述式テスト						
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療		健康			
	ケア	栄養		家族			
	身体機能変化	アルコール					
成績評価の方法	講義出席状況(2/3以上)を満した上で, 学習意欲・態度(10%), テスト(90%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない。						
自由記述欄							

科目コード	5130090			単位	2	時間数	30
授業科目名	がん医療と緩和ケア			開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	cure for cancer and palliative care						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択必修
				受講対象学生	全学 1・2年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
伊藤 登茂子	保健学専攻	C-209	018-884-6519	浅沼 義博	保健学専攻	A-103	018-884-6524
兒玉 英也	保健学専攻	C-114	018-884-6513	山口 典子	保健学専攻	C-113	018-884-6522
煙山 晶子	保健学専攻	D-305	018-884-6548	渡邊 知子	保健学専攻	C-207	018-884-6539
高階 淳子	保健学専攻	B-103	018-884-6551				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 16:00 - 16:15		【場所】	講義室または各教員研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
「がん」という病い、そして生活者たる人々にある「がん」、および治療的行為(cure)と援助的行為(care)の理解を通して、「がん」との向き合い方を学ぶ。				1) 日本における「がん」の実態と課題について理解できる。 2) 「がん」とともに生きる人々の全人的理解について述べることができる。 3) 「がん」の予防と療養における栄養について述べるができる。 4) 「がん」と遺伝子とのかわりについて理解できる。 5) 発生頻度の高い「がん」の特徴と治療、およびがん医療の未来について理解を深めることができる。 6) 「がん」とともにより良く生活するための症状マネジメントについて、理解することができる。 7) 身体的・心理的・社会的苦痛とスピリチュアルペインについて述べるができる。			
カリキュラム上の位置付け	大学生として社会の期待に応えられる資質の涵養を目指し、教養基礎教育科目として位置づける。						
授業の概要	【授業の概要】 講義を主としながら、がんの成り立ち、治療、ケアについて現状の理解を深め、がんとともにいかにより良く生きるか、どのように向き合うかを共に考える。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1・2回(10/3、10)がんの動向、がん看護総論(伊藤) 3・4回(10/17、24)がんの予防と療養における栄養(渡邊) 5・6・7回(10/31、11/7、14)がん医療の現在と未来(浅沼) 8回(11/21)がん概日リズム(兒玉) 9回(11/28)がん遺伝子(山口) 10回(12/5)がん患者の放射線治療に伴う症状マネジメント(渡邊) 11回(12/12)がん患者の化学療法に伴う症状マネジメント(全身倦怠感、脱毛、嘔気、味覚障害など)(高階) 12回(12/19)がんそのものおよび手術療法に伴う症状マネジメント(悪液質、疼痛、リンパ浮腫)(高階) 13・14・15回(2014年1/9、23、30)がん患者・家族の苦痛や苦悩と緩和ケア(煙山) 16回(2/6)試験						
授業に関連するキーワード	がんの動向		がん看護		生活習慣		
	がん医療		全人的理解		緩和ケア		
	症状マネジメント						
成績評価の方法	2/3以上の出席を試験の受験資格とし、筆記試験で60/100点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『19歳の君へ - 人が生き、死ぬということ』		日野原重明 編著	春秋社	2009	
	参考書	『トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント』		Twycross, R., 武田文和	医学書院	2010	
	参考書	『ケアの思想と対人援助』		村田久行	川島書店	2010	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130101			単位	2	時間数	30
授業科目名	大学生と健康 B - 上手に生きる為の基礎知識 -			開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Students and Health A:A primer of mental and physical health for college students						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287	2287	小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		佐藤 敏治	非常勤講師	2286	
草薙宏明	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
武村尊生	非常勤講師	2286					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日 9:00 - 17:00		【場所】	保健管理センター		
授業の目的				授業の到達目標			
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。				健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。			
カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。						
授業の概要	【授業の概要】 1)人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持つておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を学んでおくことが必要である。 2)また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、まず						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ1.5ヵ月に1本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは1本ずつ評価して、テスト成績に加点する。						
授業に関連するキーワード	心と体の健康保健		成人病・鬱病・痴呆		睡眠障害と心身の調子		
	生活構造と人生・宗教		飲酒地喫煙の害と発癌		エイズ・妊娠・出産		
	救急措置・海外渡航						
成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答）、及びレポートを統合して行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『学生と健康』		国立大学法人保健管理	南江堂	2011年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130140			単位	2	時間数	30時間	
授業科目名	外科手術と手術機器の進化			開講学期等	後期	時間割	水9・10	
授業科目名英字	Evolution of the surgical devices and its procedure							
備考	受講人数多数の場合は、制限する可能性があります。			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択	
				受講対象学生	全学部 1, 2, 3, 4年生			
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
安藤秀明	戦略的外科系医師養成ブ	6471	884-6471	齊藤 元	呼吸器外科	6128	884-6128	
石橋和幸	心臓血管外科	6135	884-6135	森井真也子	小児外科	6143	884-6143	
他 非常勤講師								
オフィスアワー	【曜日及び時間】	II期 水曜日 9・10時限		【場所】	医学部 第一講義室			
授業の目的				授業の到達目標				
<p>外科手術の進歩が、麻酔・消毒法・手術機器の開発によって飛躍的に進化し、変貌していることを理解する。 外科サブスペシャリティの特徴を理解する。 手術機器の構造を理解し、操作を体験する。</p>				<p>1. 外科治療の歴史を理解し、進歩の要因を説明することができる。 2. 安全な手術のために必要な麻酔の重要性を説明できる。 3. 手術の安全性・確実性・低侵襲性を実現するために、手術機器が開発されてきた経緯を説明することができる。 4. 外科サブスペシャリティの特徴を説明できる。</p>				
カリキュラム上の位置付け	外科系手術手技、その開発に関わる機器の進歩に関心を持つ学生・一般に向けた基礎科目である。医学部以外の受講も歓迎する。							
授業の概要	【授業の概要】 手術機器はその原理を講義で理解し、実際に操作体験を行う。							
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1. 外科の歴史 2. 創傷治癒 3. 手術機器の進化 1) 縫合糸 2) エネルギーデバイス(電気メス、超音波凝固切開装置、熱凝固装置、超音波破碎器など) 3) 鉗子 4) ディスポーザブル物品 5) 光学機器 4. 内視鏡手術 5. 鏡視下手術(腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術) 6. ロボット支援手術 7. 医療機器管理 8. 外科サブスペシャリティ: 消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科							
授業に関連するキーワード	外科医学史		光学機器		手術機器			
	消毒		創傷治癒		鏡視下手術			
	エネルギーデバイス							
成績評価の方法	出席・講義毎のレポート提出							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	資料を随時配布する。							
自由記述欄								

科目コード	5140031		単位	2	時間数	30	
授業科目名	社会と地域B - 都市社会学の基礎 -		開講学期等	後期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Society and Community B: Introduction to the Urban Sociology						
備考	授業内容に関心のない人(単位取得のみが目的の人)は受講しないでください。		授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	(「教養基礎教育」では特になし)		履修する際に前提とする授業科目	(特になし)			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉 浩	教育文化学部	教育文化学部3号館322	018-889-2649			e-mail: izumi@ed.akita-	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時		【場所】	教育文化学部3号館322		
授業の目的				授業の到達目標			
現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。				1.社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2.社会学の基本的な考え方を理解する。 3.都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。						
授業の概要	【授業の概要】 授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 授業予定(以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します)。 第1講 授業についての説明 第2講 現代社会と社会学 第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講 国民国家の形成と社会科学 第5講 産業革命と都市化 第6講 消費社会と都市 第7講 都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講 国際化、グローバル化と都市 第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講 都市とユニバーサルデザイン 第11講 都市社会学の主要な理論の潮流 第12講 ジンメルの都市論 第13講 シカゴ学派の都市社会学 第14講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学2						
授業に関連するキーワード	社会学	都市	社会理論				
	空間論的転回	国家	グローバル化				
	地域	消費社会					
成績評価の方法	授業に関連する内容について的小テスト(複数回の場合あり)とレポートで成績を評価します。 ・小テスト(40点):授業内容について理解しているかの確認 ・レポート(60点):授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDに						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『都市空間の地理学』		加藤政洋・大城直樹編	ミネルヴァ書房	2006	
	参考書	『地図の想像力』		若林幹夫	講談社選書メチエ	1995	
	参考書	『鉄道旅行の歴史』		シヴェルブシュ	法政大学出版局	1982	
	参考書	『ジンメル・エッセー集』		ジンメル	平凡社ライブラリー	1999	
参考書	『Sociology, 6th edition』		Anthony Giddens	Polity Press	2009		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書と参考文献(和書および英語の文献)は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。教科書、参考書を、あらかじめ購入する必要はありません。						
自由記述欄	講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。						

科目コード	5140050		単位	2	時間数	30	
授業科目名	秋田の自然と文化 - 秋田の食 -		開講学期等	後期	時間割	金7・8	
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita I : Dietary Habits in Akita						
備考			授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1号館203室	018-889-2530				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日9・10時限		【場所】	教育文化学部1号館203号室		
授業の目的				授業の到達目標			
秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食文化の今日的役割と課題について考える。				1) 食文化研究の対象・方法・目的を理解し、地域における食文化の今日的役割と課題について、考察することができる。 2) 食の地域性とその要因について、事例(秋田の食、出身地の食)をあげて説明できる。 3) 各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を発表できる。 4) 秋田の食市場の観察あるいは資料・試料収集を行い、その結果を発表できる。			
カリキュラム上の位置付け	主題別科目【地域社会】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。						
授業の概要	食文化研究では、食料の生産、流通、調理・加工、食卓構成、食事などの流れを含む人々の生活様式が研究の対象となる。これらが、地域や時代、集団によって共有され、特有の文化を形成している状況及びその要因を研究することにより、今後の食生活への示唆を得ることができる。 本授業では、日本の食文化の形成と変化について概説した後、研究事例として秋田の食文化(米食・野菜食・魚食・発酵食文化等)を講述し、情報収集及び市場探訪・試料収集等を通して、地域における食文化の今日的役割と課題について考察する契機とする。						
授業の進行予定及び進め方	第1回 ガイダンス：地域とは 食文化をめぐるトピックス 第2回 食文化の領域：食文化の定義、食文化研究の領域と対象・方法 第3回 日本の食文化の形成と変化 第4回 日本(地域)の食文化の現状と課題 第5回 秋田の伝統食にみる食文化 第6回 秋田の日常食・行事食にみる食文化 第7回 秋田の米食文化 第8回 秋田の野菜食文化・魚食文化 第9回 秋田の発酵食文化 第10回 秋田の食文化トピックス 第11回～第14回 秋田の食文化探訪(グループ活動：学外活動を含む) 第15回 活動報告会・総括 * 授業の内容に応じて、評価・分析・調査等を個別あるいはグループ別に実施し、毎時、評価用紙・課題用紙等を提出する。 * 情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。 * PCプロジェクターは随時活用する。						
授業に関連するキーワード	食生活		食文化				
	地域		秋田				
成績評価の方法	毎時間の課題用紙の提出および内容(60%)...到達目標1)2)3)4) グループ活動報告書および報告会(40%)...到達目標3)4)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『日本の食文化 その伝承と食の教育』		江原絢子・石川尚子	アイ・ケー・コーポ	2009	
	参考書	『あきた郷味風土記』		秋田県農山漁村生活研	カッパン・プラン	2005	
教科書・参考書等に関する記述欄	資料を配布する。その他の参考書については、授業テーマに応じて適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140091		単位	1	時間数	15	
授業科目名	秋田の自然と文化 B - 秋田の自然・資源・社会・文		開講学期等	後期後半	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita IVB:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
今井 亮	地球資源	工資G309	889-2371	石山 大三	環境資源センター	工資セ218	889-2447
内田 隆	地球資源	工資B304	889-2652	井上 正鉄	人間環境	教文4-412	889-2588
石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616	小泉 幸央	医学部分子機能学・代謝	医	884-6075
大場 麗奈	医学部内科学第1講座	医	884-6104				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜, 16:00-17:00		【場所】	工資G309・889-2370		
授業の目的				授業の到達目標			
秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。				1) 限りある地下資源の基礎的知識を学習し、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) 遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解することができる。 5) 胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる。			
カリキュラム上の位置付け	人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う(本年度の担当責任者は今井亮)。						
授業の概要	1) 世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源、資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学。 2) エネルギー資源の賦存状況、秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 3) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系、人間との共存についての講義。 4) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 5) 遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解するための講義。 6) 胃癌について、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解するための講義。						
授業の進行予定及び進め方	第1回(今井亮): 秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源を概説し、秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術について紹介し、資源問題を考える。 第2回(石山・今井): 地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学・観察する(学生ボランティアも参加)。< 鉱業博物館玄関に集合 > 第3回(内田): 限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し、その基礎的知識を学習する。秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 第4回(井上): 世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。 第5回(井上): 秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり、両地共にブナ林に覆われ、そこには国指定天然記念物であるイヌワシ、クマガラを始め貴重な鳥獣が生息している。秋田が誇る生態系の構成員である貴重な鳥獣の生態を紹介、人間との共存の道を探る。 第6回(石沢): 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 第7回(小泉): 秋田県出身の応用微生物学者「遠藤 章」による高脂血症治療薬「スタチン」の発見を通して、遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解する。 第8回(大場): 秋田県の胃癌死亡率は、十数年日本ではほぼワーストワンの座に君臨している。講義を通して、一般的な知識を学ぶ他、病気を身近なもの、そして予防の重要性について考える。						
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源		黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地			
	秋田の自然		秋田の地域社会	微生物と創薬			
	癌		鉱業博物館				
成績評価の方法	授業内容に関するレポート(50%)、簡単な小テスト(50%)で評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に使用しない						
自由記述欄							

科目コード	5150050			単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語リテラシー - 表現力 -			開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Japanese Literacy						
備考				授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
				受講対象学生	1年次以上		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷 秋生	教育推進総合センター	学生支援棟2階	2252	栗城 宏	非常勤講師		
畠山 民栄	非常勤講師						
オフィスアワー	【曜日及び時間】	銭谷：水曜 3・4		【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
1)演劇的手法を使って演習を行い、現代人に必要な会話によるコミュニケーション能力を高める。 2)「相手を認める」ことがコミュニケーションの第一歩ということを受け止める。				1)相手の話を受け止め、自分の考え・意志を相手にしっかりと伝える事ができるようになる。 2)急に人前に出てのスピーチに際して、自分の思いを伝えることができるようになる。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要	【授業の概要】 前半は、短い戯曲を用いて演劇の稽古を行う。その際に留意することは、登場人物の心理の変化を台詞から読み取り、自分の心理の変化として相手に投げかけること。また、相手の台詞からもらう言葉によって再び心理の変化が起き、次の言葉を生み出す。この連続する作用によってドラマを浮き立たせていく。 後半は、スピーチの技法を学びながら、「言葉が届く」とはどういうことかを考える。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1回 自分の言葉で語る。 演劇の基礎。シアターゲームなどを用いて、自分の思いを自分の言葉で語る。 2回 声の拡大。心理の拡大。 発声の基礎。「走れメロス」を用いて心理的極限状態の声をさぐる。 3～6回 戯曲の台詞を読む。(わらび座の上演作品から抜粋) 読み合わせ。役の台詞を読み、心理の変化を探る。 演劇演習(わらび座の上演作品から抜粋) 立ち稽古。しっかりと相手役と会話をする。 7回 まとめ 成果発表。 8～14回 実技を交えながら進める。 「話す前に"姿"有り」話すことのトータルな部分を学ぶ 自己紹介「自分を印象づけるには...」 新聞・雑誌の記事の中から...「3分～4分くらいのスピーチを」 その場でのスピーチ 朗読「資料有り」 15回 最終日は「自分の が好きになりました」のテーマでスピーチ 大きな出来事があった時は、タイムリーに取り上げ、スピーチをしてもらう。						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	成果発表時の実技、授業時の発表と期末のレポートにて評価する。 台詞の理解力があるか、多様な心理変化の表現が的確かどうか、会話が成立しているか、などを特に重視する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	プリントを配付し演習を行う。参考文献はその都度紹介する。						
自由記述欄	『人は一人にらず』相手を認めることができるかどうか、社会人としての基本を学んでいきたい。						

科目コード	5150081		単位	1	時間数	15	
授業科目名	情報と知識・技術 B - 実際に役立つ学習技術 -		開講学期等	後期前半	時間割	火7・8	
授業科目名英字	Information Literacy in academic studies IB						
備考	70名以内		授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	図書館概論, 図書館サービス概論, 図書館経営論		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
附属図書館長	附属図書館	2272	018-889-2272				
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
<p>大学で学ぶにあたって必須となる学術情報について知り、自分の学習・研究に必要な参考文献を調査・選択し、レポート・論文としてまとめるためのスキル(情報リテラシー能力)を獲得する。</p>				<p>1) 学術情報全般の基礎がわかる。 2) 秋田大学附属図書館の基本的な利用方法がわかる。 3) 秋田大学の図書検索システムOPAC等を利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 4) 各種データベースで情報や論文を検索でき、電子ジャーナルを入手できる。 5) レポート・論文のまとめ方の概要がわかる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	課外の学習を進めるに当たって、図書館と学術情報の利用に習熟することは必要不可欠であり、その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また、教育文化学部における、学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。						
授業の概要	授業は講義と演習で行います。演習ではコンピュータを使って実際に情報検索を行います。						
授業の進行予定及び進め方	【進行予定】 1. 学術情報概論 2. 図書館の使い方と情報検索の基礎 3. レポート・論文を書くために 4. 図書の探し方 5. 論文データベースと雑誌(1) 6. 論文データベースと雑誌(2) 7. 事柄・新聞記事・統計を調べる 8. 試験・講評 講義：附属図書館長 演習：図書館職員						
授業に関連するキーワード	情報検索	インターネット		図書館			
	学術情報	情報リテラシー					
成績評価の方法	学習態度(30%)、課題(10%)試験(60%)とし、総合60%を合格とする。 欠席3回の時点で評価はDとする。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『秋田大学情報探索ガイドブック2013』					
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	受講者の上限を70名とする。第1回目の授業で上限を超えた場合、a・netへの受講登録の有無にかかわらず、その場で抽選を行う。当日に欠席又は遅刻した場合は抽選に参加できない。						